

## 1, 老人福祉事業 記念品交付

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：各地区で開催される敬老会において記念品を配付し、地域住民と共に長寿をお祝いしながら地域ふれあい交流の推進を図る。

内容：実施場所 竹富町全域

実施日 令和2年9月15日～21日

対象者 80歳・85歳・90歳・95歳・100歳以上

事業実績：平成30年度 80名

令和元年度 103名

令和2年度 83名



地区	人数	地区	人数	地区	人数
竹富	17	大富	2	住吉	1
黒島	6	古見	3	祖納	3
小浜	10	美原	1	干立	1
細崎	1	船浦	2	白浜	2
豊原	1	上原	5	波照間	18
大原	4	中野	2	南風見苑	4

- まんだら一茶（竹富島）
- 黒糖（小浜島）
- もちきび（波照間島）
- アーサつくだ煮 or しぐれ煮（黒島）
- 黒紫米（西表島）



・毎年好評である竹富町特産品詰め合わせセット。保育所、園児の協力のもと、子ども達のメッセージ・ぬりえでラッピングが華やかにお祝いすることが出来ました。

## 2, 老人福祉事業 絵本を通して豊かな未来を



## 【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】

目的：絵本を通して利用者との関係性が深まり、普段の生活により居心地がある居場所づくりとなるようお年寄りとちょっと素敵な時間を過ごせるヒントや笑顔が見られることを目的とした絵本の読み聞かせを学ぶ。

事業実績：実施日 令和元年5月19日

実施場所 石垣市立図書館 視聴覚室

講師 一般社団法人 絵本メタリング協会

代表理事 仲宗根 敦子 氏

絵本EQ講師 當間 くみこ 氏

対象者 保育士、幼稚園教諭、サロンボランティア、

竹富町ファミサポ サポーター、

竹富町役場・竹富町社会福祉協議会職員 その他 総勢 36名



内容：心が育つIQ絵本講話

【竹富島】日時：令和2年11月6日（金）15:30～16:30

場所：竹富町立竹富保育所

【西表島西部】日時：令和2年11月7日（土）11:00～12:00

場所：中野わいわいホール

【西表島東部】日時：令和2年11月7日（土）15:30～16:30

場所：離島振興総合センター ホール

【波照間島】日時：令和2年11月8日（日）11:00～12:00

場所：波照間複合型福祉施設

参加者：46名（3日間累計）

保護者 18 名、保育園士・幼稚園教諭 10 名、地域ボランティア 7 名、  
民生委員 4 名、その他 2 名、竹富町社会福祉協議会 5 名

講師：一般社団法人 絵本未来創造機構  
絵本 EQ 講師 山城 弘美 氏  
山城 なぎさ 氏(竹富保育所保育士)



・事前準備、調整が担当者だけではなく、他職員も一緒に準備していったのでスタッフ間で一体感が生まれました。また、現地保育所職員もサポート役として一緒に行動できました。

・講話開催日については調整に時間がかかりましたが、中止することなく三密、人数制限、時間短縮。参加者から、充実した時間を過ごせたとして喜ばれました。

・波照間島については、運航未定を見据えて、リモートで行って行くとして事前に開催場所の調整、会場準備について確認を行っていたことで、当日はスムーズに開催出来ました。

・日程が9月から10月、11月と何度か調整もある中で、実施日(読書週間10/27~11/9)が決定しましたが、他のイベントも重なり参加者が思ったより激減。三密は避けられましたが、より多くの参加者がコロナ禍でも出来るよう、また新しい生活様式を考えリモートでの講話開催も今後検討が必要だと感じました。

[参加者の声]より

## 【竹富】

- 本を読む時、声を変えてしまったりオーバーに話してしまっていたので、これからは無理をせず、自然に読んであげたいです。
- 講話後…と同じですが、読み方を改めてやっていこうと思います。本のオススメもあり参考になりました。
- 読み聞かせが良いと聞いてはいたけど、ちゃんと、根拠がある読み方など聞けて良かったです。本当に考えさせられました。接し方、変えたいと思います。
- 絵本の読み方などなかなか知ることがなかったので、このような機会があり、とっても嬉しく思います。
- 今日はありがとうございました！読むときのコツなども教えて頂き、勉強になりました。つつい感情が入ると声色を変えがちでしたが、声色は変えないように読もうと思いました。色々なおもちゃやツールがある中、絵本だけはいい所しかないと思っているので、これからも毎晩読もうと思います。
- 山城先生のやわらかい語り口調で、とても心地良くお話をお聞きすることが出来ました。読み終えた後、ほめて認めてあげることが本1冊で1回できる！可愛い子ども達の為そして、こんな私を大好きでいてくれる子ども達のために、私自身も成長できるよう、読み聞かせ、楽しみながらやってみます。今日は、ありがとうございました。
- 子どもが動き出し…外から見る方が長かったからかな…？もっとじっくり聞きたかったのですが、絵本に対する意識は高まりました！
- 上の子が小さい時は気にして読んでいたけど、3人目で仕事も忙しくなって後回しにしていました（今度ね!）とか…。子どもたちは絵本の読み聞かせが好きなので、また時間を見つけながら読んであげようと思いました。怒ってばかりだったけど、ほめるように気を付けます。
- 短い時間で、すごく学べ為になりました！
- 6才までの子どもの成長が本当に大切、重要と良くわかった。
- 絵本の大切さを講話で知ることができて良かった。ネットなどで情報はあると思うが多すぎて良いものを選ぶことが難しいと思っていたところなので良かった。また来年度も行っていきたいな。
- 長男（10才）が生まれる前に初めて購入した絵本が「いないいないばあ」だったので、うれしかったです。初めて見る本もあったので、読んでみたいです。
- 世代が変わり子育てもすいぶん変化している事にびっくり又大変だろうな〜と思います。デイサービスで絵本を読んであげるんですが早口だと耳が聞こえにくい老人にはどうしたら良いのか？と思いました。老人への読み聞かせの仕方を教えてください。何もかもが変わっているので、これでいいのかと不安になります。

## 【西表西部】

- 自分が日頃読み聞かせをしながら悩んだりしていたことが今日、解消されました。絵本はいいよ〜と声掛けしながらも、今日から常々と…伝えることができますと思います。
- 子どもの脳の特徴…今まであまり考えていなかったように思います。それぞれの育ちに合った絵本の読み聞かせ方があること、大変参考になりました。子どもと一緒に絵本を楽しみたいという今までの私のスタンスと、絵本そのものを楽しませたいという今日の学びを織り交ぜて、これから絵本を楽しみたいと思いました。
- 2枚目にまとめて書いてしまいました。楽しかったです!!
- IQ,EQが育つことがわかり勉強になりました。今までやっていた読み聞かせのポイントで、やってはいけないことをやっていた気づかされました…。大変勉強になり、明日からの保育に活かしていきたいと思いました。また、家では母親として読み聞かせの実践をしながら、娘とのコミュニケーションを育んでいきたいと思います。「ええところ」の絵本良かった。
- 絵本の持ち方が分かって、これを参考にし、読み始め、終わりまでしっかり真似したい。

#### 【西表東部】

- 絵本が大好きでいつも読み聞かせしているので、更になにかヒントになるお話が聞けたら…と思って来ました。どんな内容かは想像つきませんでしたので、前半「子育て中の親」に向けた内容が多かったのも、他の参加者の方（子育てほぼ終わっている人が多かったのも）たちのことが気になってそればかり考えてしまいました…。妊娠中の人や赤ちゃんがいる人に向けた講座！！ってチラシにあると良いかも。子ども連れで来たので、絵本を何冊も読んでもらったのが嬉しかったです。（そういう時間があるとは思っていなかった）とても助かりました！
- 娘を読み聞かせする時の具体的、技術的なものを知れたので今後、活かしていきたいです。最後の絵本、お母さんの絵本とても良かったです。
- とても良かった。読み聞かせの機会があったらチャレンジしようかしら。心がゆったりしました。
- 色々な皆さんに聞いてもらおうと良いかなと思いました。
- 保育所、幼稚園生の父母を対象にしたら、もっと良かったと思います。ちょっと残念で、もったいなく思いました。
- ゆっくり読むのが良いと思っていましたが普通のスピードで良いとの事、アレンジもなく良いと…。ためになりました。

#### 【波照間】

- いつも本を読んでと言われるとめんどくさいなあという気持ちがあったけど、今日から少しがんばれそうな気持ちになれました。絵本の読み方間違っていたところがあるので、知れて良かったです。
- IQ、EQ ともに育つと聞いて、とても良かったです。また、親子の時間を大切にする方法として取り入れたいと思います。
- 子どもをきちんと1人の人間と思い、接する事の大切さ、日々追われる中で、気持ちにゆとりがなくなっていました。最後に読んで頂いた“おかあさんだいすきだよ”とても良かったです。忘れていた、大切なことを思い出せられました…。否定ではなく、肯定ですね…。
- 子どもたちが絵本大好きなので、これからもどんどん読み聞かせをしていきたいと思っています。本日は有意義なお話ありがとうございました。
- ありがとうございました。絵本を読みながら、自分のイメージを押し付けていた部分も多くあったな～と思いました。とっても良いお話を聞けて良かった。ありがとうございました。絵本の大切さを改めて知ることができた。
- 読み聞かせしている時は絵本に集中し子ども達へは目を向けられない方が…質問、感想等は聞いてはいけない。
- ネットでの講話ありがとうございました。直に先生の絵本等いろいろ聞きたかった。
- 読み聞かせ方を教えてもらい、勉強になりました。
- 具体的な絵本の良い所、絵本の読み方を話して下さりとても分かりやすく勉強になりました。

各保育所（7）・幼稚園（3）へのプレゼント [絵本 10冊ずつ]



### 3, 児童福祉事業 新入学児童用品交付 【財源：赤い羽根共同募金・寄付金・会費等】



目的：竹富町の次世代を担う子ども達の健やかな成長を地域で支え、児童福祉の向上を図りながら新入生のお祝いをする。

内容：実施場所 竹富町立小中学校

実施日 令和2年4～月

対象者 竹富町内各小中学校の新入児童生徒



事業実績：

令和元年度

小学1年生へのプレゼント [サインペン・赤青色鉛筆・消しゴム・液体のり] 50名

中学一年生へのプレゼント [消しゴム・3色ペン・蛍光マーカー] 40名

令和2年度

小学1年生へのプレゼント [サインペン・赤青色鉛筆・消しゴム・液体のり] 49名

中学一年生へのプレゼント [消しゴム・3色ペン・蛍光マーカー・付箋] 54名



- ・コロナ禍の中、交流が図りづらくありましたが、地域の民生委員児童委員、相談員のあいさつ回りをかねて配布することで、学校と地域の民生委員児童員の皆さんの顔合わせを行うことが出来ました。

## 4, 児童福祉事業 児童福祉週間行事地域ふれあい交流イベント 【財源：赤い羽根共同募金】



目的：児童福祉週間行事の一環として、保育所・地域住民等と協働してふれあい交流イベントを開催する。

事業実績：

平成 30 年度 黒島保育所 園児 8 名、地域住民  
小浜保育所 園児 26 名、地域住民 総勢 105 名  
他 5 ヶ所の保育所にて実施 全体 372 名  
令和元年度 西表保育所・上原保育所 園児 19 名、地域住民  
総勢 40 名  
大富保育所 園児 20 名、地域住民 総勢 63 名  
他 4 ヶ所の保育所にて実施 全体 266 名

内 容：令和 2 年度

【竹富島】 保育所（コロナ禍の為保育所より中止連絡入る）

【波照間島】 日 時：令和 2 年 9 月 16 日（水）10:45～12:00

場 所：波照間保育所・幼稚園

参加者：波照保育園児 16 名、幼稚園児 12 名、保育士・幼稚園教諭 5 名、  
園長、ハイビスカスハーモニー（サロン）9 名、保護者 7 名  
総勢 55 名



【西表島東部】日 時：令和3年3月11日（木）13:40～14:10

場 所：大原中学校体育館

参加者：生徒・先生 総勢 33名



日 時：令和3年3月11日（木）13:40～14:10

場 所：西表島離島総合振興センター

参加者：デイサービスさみん（東部地区）利用者・スタッフ他  
総勢 17名



【竹富島】日 時：令和3年3月17日（水）13:30～14:00

場 所：竹富小中学校体育館

参加者：児童生徒・先生 総勢 37 名



・新型コロナの影響で4月に予定していた鯉のぼり掲揚式に合わせたふれあい交流イベントが中止・延期となったため、予定していた波照間地区については保育所の予定に合わせて後日サロンと調整し開催。他地区については、中止となりました。

・学童募金贈呈式及び、募金額が多く集まった学校を代表して、「パフォーマーにんにん」をお昼休みに合わせてサプライズお楽しみ会を開催。また、デイサービスさみん（東部地区）でも開催することが出来、それぞれの場所でパフォーマーを楽しめました。

保育園児へのプレゼント[クレヨン]・幼稚園児へのプレゼント[えの具]  
未就学園児へのプレゼント[ベビー石鹸、口拭きシート]



## 5, 児童福祉事業 ボランティア推進指定校 【財源：赤い羽根共同募金配分金】



目的：ボランティア活動や福祉教室等を通して、「住んでいる地域で自分にできること」へ“気づき”を促し、安心して豊かに暮らせる地域づくり推進に児童生徒が積極的に携わっていただけるよう支援する。

### ボランティア推進指定校

活動助成金を交付し、学校単位で様々なボランティア活動を計画し、実践した。

実施場所 大原中学校・黒島小中学校

実施日時 令和2年4月1日～令和3年3月31日

対象者 児童生徒

### 事業実績

学校名	ボランティア活動内容	参加人数
大原中学校 (2年目)	6月23日 ●ペットボトル募金箱の作成 ・社協から資料や材料を提供して頂いて、赤い羽根共同募金の取組の1つでもあるペットボトル募金箱を作成。2・3年生は去年も作成した経験を活かし、1年生とペアで募金箱を作成。丁寧に仕上げる事が出来て満足そうだった。	全校生徒 (33名)
	9月23日 ●地域のボランティア清掃下見【仲間川周辺】 ・地域のボランティア清掃の計画の為に、2年ぶりに清掃する仲間川周辺の下見を行った。周辺にある業者への依頼や清掃場所の確認、必要な道具や和についても、生徒たちで計画することが出来た。下見のついでに、ペットボトルなどを拾った。	執行部 (6名)
	9月30日 ●地域のボランティア清掃【仲間川周辺】 ・前年度は実施できなかった仲間川周辺を3つの班にわかれ、清掃を行った。各班を異学年集団で構成し、執行部や各委員長がリーダーとなって清掃を進めた。終了後の感想では、「日本のものではない漂着ものも見られた」「筏下りでお世話になった浅橋を清掃出来て良かった」「東屋は葉っぱを集めるのが中心で、ゴミを拾うことが少なかった」という発表があった。地域の方々のポイ捨てをしない意識や漂流ゴミから他国との関わりの中で環境保全の努力に気づくことができた。	全校生徒 (33名)



10月12日 ●ペットボトル募金箱の設置

・作成した募金箱の20個は石垣に送り、残りは西表東部地区の各事業所に設置の依頼を行った。西表交通、大富売店、港のやおやさんに協力を仰ぎ、設置することが出来た。

執行部  
(6名)

12月12・13・19・20日

●赤い羽根共同募金 街頭募金活動【大原港】

・大原港で、赤い羽根共同募金の街頭募金活動を行った。1回目は12日(土)、13日(日)に3つのグループ(3年生・テニス部・野球部)で行った。2回目は19日(土)・20日(日)に前の週に地区大会のため参加出来なかった男女バスケットボール部で行った。船が出入りする時間帯に合わせて活動した。地域の方々や観光客の方々に積極的に声をかけた。その結果、街頭募金だけで127,470円の善意が寄せられた。協力に感謝し、出発する船の見送りすると、観光客の方々も手を振ってくれた。「募金活動をして、観光客以外にも島内の方が募金してくれたので、大原中学校は愛されているなと思いました。」という感想もあり、地域に対する感謝の気持ちにつながった。

全校生徒  
(33名)



1月14日 ●赤い羽根共同募金 贈呈式

・社協の方々に直接、集めた募金を贈呈することが出来た。生徒会執行部から、街頭募金の金額と各家庭で集めてもらった募金の総額が去年の倍以上の158,380円だったと報告。また、生徒代表あいさつでは、「皆さんにも、募金活動を通して、助け、支える力があることを、知ってもらいたい。」「社協の方には、募金に協力して下さった方たちの思いの詰まった15万円を有効に使っていただけると嬉しいです。」という発表があった。

全校生徒  
(33名)

2月17日 ●地域のボランティア清掃【大原港】

・日頃からお世話になっている大原港で、4つの班に分かれて清掃を行った。各班を異学年集団で構成し、執行部や各委員長

	<p>がリーダーとなって清掃を進めた。終了後の感想では、「日頃お世話になっている港を、きれいにする日本人の気づかいを感じた」という発表があった。また、各船各社の販売所の方々にも「忙しい時期なのに、毎年、清掃しに来てくれて、きれいにしてくれてありがとう」と声をかけられ、嬉しそうだった。</p>  <p>3月10日 ●ボランティア推進校報告会 ・2年間のボランティア推進校の取組を、施行部が中心になって、大原中学校の体育館で報告した。2年間の取組の活動や反省点、課題点、今後の取組を丁寧に発表することが出来た。社協の大城正明会長から「ボランティアの本質である主体性が育まれていることがよく伝わった。これから社会に出ていく皆さんにとって、このボランティアの心が生活をより豊かにしてくれる」と激励の言葉ももらった。</p> <p>通年 ●ボランティア清掃 【毎朝】7:55～8:10 ・毎朝、8時から10分間、校内外のボランティア清掃を行っている。今年度は、情報・掲示委員会の呼びかけや、体育・環境整備委員会が清掃道具を早めに出してくれていることで、7時55分から始めることが出来ている。清掃活動の範囲が広がり、校内だけでなく、県道沿いやバス停近くまで清掃するようになった。昨年度は、8時過ぎからゆっくり始まっていた活動が、8時前から道具を持ち、清掃する姿も多く見られる。校外を清掃するために、どんな道具が必要かなど、見通しを持って行動する姿があたりまえになっている。</p> 	<p>全校生徒 (33名)</p> <p>全校生徒 (33名)</p> <p>全校生徒 (33名)</p>
	合 計	232名

#### 活動推進のねらい

- (1) ボランティア活動を通して、生徒一人一人のボランティア意識を育てる。
- (2) 体験活動を通して、生徒の自主性・主体性を育み、社会的自立を促す。
- (3) ボランティア活動を通して、地域社会へ貢献する心や態度を養う。

#### 今年度の効果

- (1) 2年目の取組ということで、先輩たちが継続してきた地域の清掃活動を中心に、地域に対

する感謝の気持ちや地域に貢献したいという気持ちを常に意識するようになった。

- (2) 朝のボランティア清掃や地域活動、街頭募金活動などで異年齢集団を多く取り入れることにより、2・3年生が取り組み方や活動の意識を体現することにより、1年生もボランティア精神や地域への感謝の気持ちを受け継ぐことが出来るようになったと感じている。
- (3) 朝のボランティア清掃で生徒自身の自主性が顕著に表れるようになった。  
→開始時間が早くなった。  
校外の清掃範囲がより広がった。  
(県道沿い、バス停、売店前、大富保育所前、大富公民館前など)

## 2年間の実施による効果

- (1) 「ボランティア推進校」として取り組むことにより、生徒会が計画して取組んでいたボランティア清掃や募金活動、あいさつ運動など、今まで何気なくやってきた活動に、評価を見出すことが出来た。
- (2) 取り組んでいる多くの活動を、支えてくれている地域への感謝や地域への貢献を示す良い機会だと捉えることが出来るようになった。その結果、やらされる活動ではなく、主体的に行う活動に変化していた。また、その活動も今後も継続していきたいという意欲につながるようになった。
- (3) 赤い羽根共同募金の取組で、学童募金の額が増えた。  
→中学生自身のボランティア意識の高まりによる成果だと思う。ボランティア活動への貢献が定着し、それが募金につながった。また、赤い羽根共同募金の取組に積極的にかかわることで取り組み内容や意義を知ることにつながり、子ども会や公民館、地域にそれが還元されていることに気づいたのも要因の一つだと考える。
- (4) 活動を行うには計画も大切であることに気づき、下見を行ったり、募金設置のために自分たちでその事業所に出向いたり、執行部を中心に生徒が計画できる機会をいただけた。

## 反省点

- (1) コロナ禍により、例年行われていた敬老会や、昨年実施したあしながおばさんの会との交流が中止になったのが残念だった。感染対策等を行い、この機会でなくすのではなく、次年度以降も参加出来るように関係作りをしたい。
- (2) 学校行事や地域の活動で忙しい中学生の活動なので、計画的に進めなければ、負担を強いてしまう。1年間の見通しをもった計画になるよう、新執行部が発足する時点で、年間活動計画の中に入れておく。

## 今後の課題

- (1) ボランティア推進校でなくても、今回、培うことができたボランティアに対する意識や、地域への感謝や地域への貢献といった意欲や態度が風化することがないようにする。  
→そのために、各活動の目的やねらいを明確にし、継続した取り組みになるように画する。
- (2) 各活動で無駄のない、無理のない計画・実践をめざす。  
→学校行事や部活動、地域の活動に忙しい中学生の活動出来るため、PDCAサイクルを意識し、各活動の反省を明確にして、改善を図る。

## 事業実績

学校名	ボランティア活動内容	参加人数
-----	------------	------

黒島小中学校 (1年目)	通年 ●朝のボランティア活動 ・8:00～8:15 校内・校外の清掃	全児童生徒 (20名)
	10月～12月末 ●赤い羽根共同募金の取組	児童生徒会 (7名)
	12月9日 ●来年度の豊年祭に向けて五穀の栽培	全児童生徒 (20名)
	12月16日 ●地域の清掃に参加 ビーチクリーン(伊古棧橋)	全児童生徒 (20名)
	合 計	67名

#### 活動推進のねらい

- (1) ボランティア活動を通して、児童生徒の自発性や社会性を育む。
- (2) ボランティア活動を通して、自然を守ろうとする心、地域社会へ貢献する心を育む。

#### 今年度の効果

- (1) 朝のボランティア活動で、豊年祭のための五穀の栽培などをして地域の伝統文化にも触れることが出来た。
- (2) 赤い羽根共同募金では、地域の方や観光客から募金を頂き、多くの支援のおかげで町づくりが成り立っていたり、学校のイベント(黒島)ではクリスマス会等が支えられていたりしていることに気づいた。
- (3) ビーチクリーンをすることで、自分たちの島の海岸が汚れていることに気づくとともにきれいに出来た達成感を感じていた。

#### 反省点・今後の課題

- (1) 地域にボランティアとして参加することは出来たが、児童生徒からの自主的・主体的な発想や実践を行うことが出来なかった。それができると、もっと自分たちの島を守りたいと思う気持ちや大切にすることを育むことが出来ると思う。さらに、地域の伝統文化(豊年祭)などの行事に参加したり、お供え物を栽培したりすることで、「新しい問い」(五穀ってなんであるのか等)に触れることが伝統文化に係ることにつながると感じた。



## 6. 視覚障がい者福祉事業

「私を感じるもの、見えるもの」～当事者からのメッセージ～

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：障がいの有無に関わらず地域住民が相互に人格と個性を尊重し安心して暮らすことができるようにする。体験をとおして楽しく学び、視覚障がいへの理解へつなげる。

事業実績：

平成 29 年度 実施回数 1 回 当事者 1 名 ※石垣島にて歩行訓練、相談

平成 30 年度 実施回数 1 回 西表島西部地区

婦人会・ヘルスマイト・竹民協・当事者（家族）  
含む参加者 22 名

令和元年度 実施回数 1 回 小浜島

婦人会・ヘルスマイト・当事者含む参加者 20 名

内容：実施場所 石垣市離島ターミナル 会議室 1・2

実施日 令和 2 年 10 月 23 日

参加者 大富ふれあいサロン 1 名、こみゆサロン 1 名、まーまーず 2 名、  
民生委員児童委員 1 名、小浜ヘルスマイト 1 名、  
竹富町役場 2 名、竹富町社会福祉協議会 5 名



- ・新型コロナの影響もあり、当初予定していた沖縄県視覚障害者福祉協議会の講話は中止となった為、竹富町社会福祉協議会職員で少しプログラムを変更し対応。
- ・申し込み者 16 名に対して新型コロナ感染者が石垣市の病院でクラスターが発生したこともあり、当日は 6 名の参加。3 密を避けた新しい生活様式等を取り入れた対策を講じて開催。
- ・会場づくりでは、視覚障がい者の不便さ、工夫を学ぶだけではなく、視覚を通して楽しむ気持ちも再確認になれたらと考え、机や壁をハロウィンの飾付を行うことでより講話・体験を参加者と一緒を楽しみながら学べる様に工夫したことは、参加者からとても好評でした。
- ・アイマスク（レク）体験では、折り紙や色鉛筆を使用して、思い思いに想像力を働かせながら脳トレにもなり、地元に戻ったときにやってみたいという声もありました。また、アイマスク（おやつ）体験では、アイマスクをしていることで味覚が感じ取れにくく、手元が不安定なことで、準備していたスプーンを使用せずに手で食べている人もいた。予想外の動作に戸惑うことで、視覚障がいについて学ぶことができました。
- ・おやつは、小浜・西表西部地区のヘルスマイトより手作りのおやつが準備していたので、ヘルスマイトの活動紹介にもなりました。
- ・新型コロナの感染拡大状況もあり、町の管理栄養士より食事を通しての免疫強化について話をして頂くことで、講話開催についても緊張感をもって開催することが出来ました。また、福祉支援課の障害担当からは、障害手帳について、また福祉サービスの申請手続きについて等、説明・紹介があり担当者の紹介も合わせて行いました。



[参加者の声]より

- 色々とアイマスクをかけて想像しながらの折り紙とても楽しかったです。おやつは予想通りで、アイマスクを外したらきれいに食べることが出来ました。大変勉強になりました。
- 味が感じづらい。鼻をいつもより意識させられた。
- 今日は活動報告をするということで緊張していましたが、ゲームをやりながらの目の大切さをしっかりと気づけた気がする。そして、その目の見えない方への配慮の大切さも知りました。目隠しは本当に不安になります。当人の不安を少しでも和らげることが出来るように配慮したい。最近老眼に悩んでいます。
- 毎日の生活が過ごせることは、すごいことだと改めて思いました。周りにあまり障がいの人はいないので、大変さを思いやることが出来ませんでした。アイマスク体験をサロンの皆さんと共有したいと思います。
- 短い時間でしたが、いろんなお話が聞けました。食事での体験もしてみたい(冷たい・温かい)とか。
- 目に見えることで言葉の伝わり方がちがう事にびっくりしました。見えてない事で伝わりにくい言葉、言葉を選んで使わないとみえない人へ伝わらないと感じました。おいしいおやつも目が見えていないとちゃんと食べられないし、味も違ってくることも体験できました。折り紙楽しかったです。おやつをありがとうございました。
- 周りに視覚障がい者の方に出会ったら声をかけてお手伝いさせていただきます。
- 見えないことを楽しく体験出来ました。
- 目が不自由ということ、言葉での説明での理解の難しさを実感できた。
- 話をしている人の言葉を芯の部分からくみ取って(自分自身の知識も必要だと思う。)理解する力が必要だと感じました。



## 7, 結のまちづくり活動助成事業 【財源：赤い羽根共同募金】



目的：共同募金の一部を財源として「住み慣れた島で安心して暮らせるまちづくり」の推進に取り組む団体・グループ等に対し公募によって申請を受け、助成する。

内容：実施場所 竹富全域

実施日 令和2年4月～令和3年3月

- 対象事業
- (1) 地域福祉活動の推進・福祉啓発の推進
  - (2) 健康・生きがいづくりの推進
  - (3) ボランティア活動の活性化
  - (4) 児童の健全育成の推進
  - (5) 当該申請年度中に団体を設立するための準備経費
  - (6) その他、地域福祉の推進に効果が期待できる活動

### 事業実績

#### 1. 小浜ミニバスケットボールクラブ（助成金 63,000 円）

内容：保護者と共にミニバスケットクラブとして活動。友達同士の交流を深め、一人ひとりの肯定感や相手への思いやりの心の向上をめざし、地域や親子交流を通して子ども育成に取り組む。



前年度の活動は、日曜日を主に先生・地域・保護者の方々に参加して頂けるよう声かけをしました。その事により交流する方が増え小浜ミニバスケットボールクラブをより知って頂けるようになりました。年末には交流かねて地域交流練習試合を目的としバザーを開催しました。沢山の方々に参加して頂き、バザー・募金活動での収益がユニホーム購入代金不足分にあてることが出来ました。新しいユニホームを着て早く試合が出来る日を楽しみに子ども達も練習をさらに頑張っています。沢山の方々に支えられ活動できる事に感謝しております。

## 2. 小浜島ふあまあ会（助成金 12,000 円）

内容：子ども・両親の交流を通し、孤立をふせぐ。情報交換や小さな悩みを相談しやすくする。月1回のイベント交流。



子ども同士、親同士の交流を図り、情報交換や悩み事の相談の場となり、力を抜いてストレスの軽減へつながった。コロナ禍で満足に活動出来ない中でも出来るかぎりの機会をつくり、コミュニケーションがとれたのは引きこもりなどの予防になりました。

## 3. 五感を育む会（助成金 27,000 円）

内容：島内各地に自生するアダン・クバ・月桃等は昔から生活に密着してさまざまに利用されてきた歴史があるが、知識・技術をもっている人は高齢化し、受け継いでいる人も少ない。興味はあるが習得機会のない島の子世代や移住者が、自ら学びお互いの交流も図る事で、島の文化の継承保存に貢献出来る。



石垣のヘナや藍の畑を見学する事により、知識が深まり、大里売店では作り方を学ぶとともに昔の民具も知ることが出来、先人の知恵に感心した。事業の最後に自然ガイドの講師により、植物の効能や味覚との関係等親子で学習する機会をもてた。コロナもあり、計画通りの実施には至らなかったが、上記の他にゴミを減らすための取組である大ぶつぶつ市や、みつろうラップ作り、伝統食のタラシアギー作り体験。五感を整えるヨガ等を行い、島の自然を体感するとともに自然保護の意識が高まった。会員のみならず、地域住民の方々の参加もあり、共に交流、学習の機会がもてました。

#### 4. 竹富老人クラブ松竹会 (助成金 78,000 円)

内容：カラオケで地域住民の人と人とのつながりや、健康・生きがいを推進。老人会・子ども会・青年会・婦人会との交流を深めたい。



昨年はコロナ禍によりグランドゴルフ大会やカラオケ大会など当初企画していた活動がすべて中止になった。今年になり、緊急事態宣言で例年盛大に開いている新年会および生まれ年祝いが出来ず、何が出来るのか役員が何度も協議を重ねた。その結果、密にならないように会員一人ひとりにお弁当を届け、声掛けと見守りをしてコロナに負けず百歳長寿を願い島の食材を使った料理を配布する事になった。宅配弁当は会員の皆さんに大変好評でたくさんの笑顔や喜ぶ姿をみられて良かったです。

#### 5. 黒島老人クラブ (助成金 43,000 円)

内容：高齢者が健康で明るい日常生活を送れるためのレクリエーション活動として、いつでもどこでも気軽に参加できるゲートボールを推進。



皆が集まったの試合や練習はコロナ禍で控えているため、効果が出ていないのが現状です。6月23日に2回目のワクチン接種が済むので、7月から練習を開始する予定です。先日用具の点検中に近所の子どもが遊んでいたためゲートボールの打ち方などを教えたところ、今後の三世代ゲートボール大会に参加してくれるそうです。

## 6. 古見・美原子ども会育成会（助成金 78,000 円）

内容：普段なかなか体験できないことを知る・感じる。ふるさとの素晴らしさを残し、伝える。



コロナ禍のスタートで、こいのぼり集会は中止、掲揚式のみになりました。コロナ対策として、ムイチャー（着物）作成は外注しました。大きくなって着られる大人サイズに仕立ててもらい、親子で肩上げ、裾上げ作業をし、着物の知恵を学びました。試着会では、結願祭の演目を即興で楽しみました。ムイチャー10着は子ども会の大切な財産となりましたので、行事の晴れ着として活用し、古見の文化継承に役立てていきます。自然体験活動は予算の都合上、①星空観察・②大見謝川キャニオニング（保護者が引率）・③ピナイサーラツアー（カヌー組合主催のイベントに参加）としました。仲間と一緒に西表の自然を体験し、喜びを共感する活動となりました。また、川で遊ぶ前に漂着ゴミ回収ボランティア活動を行ったところ、ゴミ問題に対して積極的な意見があり、来年度は海について学んでいきたいという事業計画を立てることが出来ました。新聞は、敬老の日特集号を発行しました。敬老会がコロナ予防の為中止になりましたが、インタビューを通して敬老者と交流が出来、また古見・美原世帯に配布し皆でお祝いする事が出来ました。交通安全対策かかし作りは、地域の先輩（新城基代さん）から、ペットボトルで作るアイデアを教えていただき、作成し集落に設置しました。車がスピードを落としている効果があります。コロナ禍の中、工夫しながら活動する事が出来ました。助成金ありがとうございました。

## 7. 上原老人クラブ（助成金 50,000 円）

内容：老人活動が、高齢者個人的な楽しみだけではなく、地域にも役に立っていくことをアピール（広報活動）し、「高齢の私でもなお、地域に一役立てる機会がある」との意識の広がりを期待する。



①県道中野線の美化活動は、前年度より活動対象を拡大し、舗道反対側の雑木や雑草を取り除き、「むらさきオモト」や他の花木（多年草や低木の観葉木）を植えて、急カーブの所も見通しも良くなり、事故の危険性も少なくなった。

②わいわいホール花壇の手入れは、結のまちづくり活動助成事業を受けて整備を続けているが、土壌も良くなってきており、花木にも勢いが出てきた。プランター活用の花作りも、側面に張り付けたステッカーは人目を引き、老人クラブ活動への地域住民からの関心も高くなってきている。

③産業振興課からプランターの保管、腐葉土の再生等の為の保管場所の設置について、結のまちづくり活動助成事業で資材を確保したことで了解を取り付ける事が出来た。

④県八重山土木事務所に対し、県道中野線の転落防止柵外側は、アダンと他の雑木が密生し、人が入れず下草の刈り取りが出来ない為、伐採を要請した。結果として、要請の土地は町有地でかつ保安林指定となっている。伐採行為は出来ないが、老人クラブから要請があれば雑木等の枝打ちは何度でも協力できる様にするとの回答を得た。

## 8. 豊原子ども会育成会（助成金 30,000 円）

内容：集落内には県道カーブがあり、日常的に危険な場所が何箇所かあります。交通安全の看板を設置することにより、ドライバーへの注意、看板を自分たちで作成することで子ども達自身も交通安全に注目出来るようにする。



集落内の危険箇所確認。父の日のイベントを兼ねて行ったことにより、父との交流を深めることが出来ました。グループで看板に書く内容（言葉やデザイン）を一緒に考えることにより仲間意識を高めることも出来ました。最後は設置した場所へ行き、各場所の危険点を確認しながら自分達の行動を改めて考えることが出来ました。

- ・ 交付式及び事業説明会はコロナ禍での緊急事態宣言も出ていたことから中止。
- ・ コロナ禍の中、計画通りに出来た団体、出来なかった団体がありました。その中でも、事前変更相談があった団体、なかった団体もあり、助成金の使用方法について事務局も一緒になって検討する場面がありました。
- ・ 各団体の活動に直接参加することが出来ず、地域とのつながりも上手く取れなく感じたので、令和3年度は状況をみながら活動日に参加し地域の方々と交流していきたいと思います。

## 8, 福祉育成援助活動事業 ボランティア育成推進 【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄付・会費等】



目的：町内ボランティアの人材育成、資質向上を行い、地域ネットワークの推進、地域福祉力の向上を図った。

内容：・ボランティア登録推進                      ・ボランティア保険受付  
・地域リーダー、ボランティアの育成  
・県社協、石垣市で開催される研修会等への派遣

事業実績：

### ① ボランティア登録推進

平成30年度 10団体52名 ・ 個人1名  
令和元年度 10団体42名 ・ 個人1名  
令和2年度 10団体55名

### ② 福祉教室の開催

独居世帯や気になる家庭等を対象に子ども達が登下校中にためらうことなく積極的に「声かけ」が出来ることを目標に、その第一歩となるようフィールドワークを行った。

### ねらい

- (1) 自分たちの住んでいる西表島の昔の様子や人々の暮らしに関心を持ち、調べ学習に意欲を持てるようにする。
- (2) 仙人の知恵や努力に気づき感謝の気持ちを持てるようにする。
- (3) 地域に住んでいるみんなが、安全で安心して過ごしていけるよう、地域のお年寄りの方と交流をし、お互いの輪を広げる機会にする。

実施場所 西表東部地区（大原小学校）5回目  
大原小学校4年生教室・離島振興総合センター大ホール  
実施日時 令和3年2月15日 10:30～12:00  
参加人数 4年生11名、教職員2名、  
あしながおばさんの会利用者9名、ボランティア11名、竹社協3名



[子ども達の声（自分が出来る事）]より

- 歩いている時にあったら挨拶をしたり、荷物を持ったりして、声をかけられるようにしたいです。
- もう顔を教えたので、次あった時は、「こんにちは。」と、優しく声をかけてあげられるといいです。そして、困っている時は助けられるといいです。
- 私は、もし道などでおじいちゃんおばあちゃんに会ったら、「こんにちは。」など、挨拶をしておじいちゃん、おばあちゃんを笑顔にさせたいです。
- 困っているおじいちゃん、おばあちゃんの手伝いや、朝や昼会ったらあいさつをしっかりとっておばあちゃんたちと仲を深めていきたいと思いました。
- おじいちゃんとおばあちゃんに会ったらはっきりと挨拶できる事です。おじいちゃんとおばあちゃんが大変そうだったらきちんと助けられる事です。
- 困っているおじいちゃんやおばあちゃんを助ける。その為に自分から声をかけたり、助けたりする。
- 困っていたら、助けてあげる。荷物をもってあげる。出来るだけあいさつをしたり、話しかけてあげる。
- 道端で会ったらあいさつをする。何かに困っていたりしたら助ける。
- あいさつやゆずり合いをたくさんしていく事です。その為には、早く行動出来るといいです。
- 近くを通ったおじいちゃん、おばあちゃんにあいさつをする。大変そうなおじいちゃん、おばあちゃんの手伝いなどをやる。
- 困っていたりしていたら、無視せずに声をかけて、手伝いなどが出来るといいと思いました。

### ③ ボランティア講演（動画配信）令和3年2月3日（水）

#### （1）県ボランティアセンター

地域共生社会の実現に向けた福祉教育の展開について

#### （2）浦添市社会福祉協議会

令和2年度浦添市福祉教室教育活動実践報告会

～コロナ禍でもつながる・地域共生社会の実現をめざして～

目 的：コロナ禍でも様々な工夫を凝らしながら実践している学校での福祉教育や地域活動の報告を通して、今後の地域活動につなげていくこと

- ・ コロナの影響で本島研修が開催されず、ボランティア推進校2校と、次回の予定推進校の参加が難しくなっていたところ、県より研修会の情報が入ったことにより、竹富町立小学校・中学校全体へ動画配信の情報提供を行うことが出来た。また、事務所内で希望者へ声かけを行い2名参加。
- ・ 福祉教育の進め方、あり方について自分のタイミングでPCにて何度も視聴できることが出来たことで、竹富町に合わせた福祉教室（アイマスク体験・車いす体験）のイメージがふくらみました。

#### ④ 令和2年度ボランティア情報交換会

地域リーダーやボランティアの資質向上を行い、地域ネットワークの推進、地域福祉力の向上を図ることを目的に開催。

日 時：令和3年2月24日（水）10:30～14:00

場 所：石垣市立図書館 視聴覚室

- 内 容：1. 前年度情報交換会及び研修会のふりかえり  
2. 心が育つIQ 絵本講話 3. ネイルシール体験  
4. 気軽に始められる健康管理・誰でも出来る手軽体操  
5. ワークショップ「ボランティア人材不足・育成について」  
6. グループ発表



参加者：竹富町ボランティア17名、与那国社協1名、竹社協4名



- ・デイサービスで行われている「今日は何の日？」として、会長よりレクレーション紹介が出来たことで、懐かしさと、歌の楽しみがあり場が和みました。
- ・絵本講話では、絵本は子どもの本だと思っていたものが、大人向けでもあることの原因がわかり、サロン活動の合間にも活用出来るとして紹介出来ました。
- ・ボランティア情報交換会では、他者の意見も聞くことが出来、他者の動きや考えに触れることが出来た。
- ・講話時間と、情報交換会の時間をゆっくり確保するためにも、別日での開催について検討が必要と感じた。今回はコロナ禍もあり、各イベント等が延期・中止・一部内容変更等がある中、実施に向けて進めてきたこともあり、限られた時間内でのプログラムを詰め過ぎだと、アンケートからも見えてきたので反省。必要に応じて、年間を通して開催日を分けて座談会を兼ねながら関わっていきたいと思います。

[参加者の声]より

- とても楽しい心おだやかな時間をすごせました。
- 目で見ると、耳で聴く事が脳への刺激になる事、感じる事は子どもも大人も同じ事と実際に絵本読み聞かせを見て感じました。また、色々の絵本の紹介も良かったです。
- 赤ちゃん絵本、こどもの絵本は、私には必要ないのかな？と聞いていたのですが、以前、年配、老人の方にはどのような絵本を読んだら？選び方？質問しましたが、今回研修があって大変うれしいです。
- あっという間の時間でした。よみ方のポイントもわかりやすかったです。自分が絵本をよんでもらう機会がふだんはないので、すごく、よんでもらう立場の気持ちも味わえてよかったです。
- もう少し高齢者向けの読み聞かせをくわしく知りたかった。  
読み聞かせがどのように良いかなどは、普段から意識している事と同じ内容でした。高齢者向けとして... となると、高齢者に赤ちゃん向けすぎる絵本を選ぶと怒るかな... とか、ゆっくり読まなかったら、絶対聞きとれないな... と思いました。子供向けとしてはいい講話だったと思います。
- とても良かったです。ありがとうございました。
- 自分たちが読んであげるのも良いが、おば一達に読んでもらうのも良いのでは。
- 脳と心を上手に使う為に、絵本を使い、話のきっかけ作り等にして読み聞かせをしてみたいと思います。
- 絵本大好きなばーばです。孫といっしょによく読んでいます。ボランティアでは年1回程なので、回数を増やしていきたいと思います。絵本を読める環境も作りたいと思います。
- 自分の両親のことを考えたときに、これがあてはめることができるかどうか、よくわからなくなる。●他のサロンの活動や困っている事がよくわかり共有できました。
- 今回素晴らしい先生との出会える機会に参加させて頂き感謝の気持ちで一ぱいです。有難うございました。●各サロンの活動状況や問題点等話が聞けて良かった。
- 絵本に対する見方が変わりました。
- たくさんの読み聞かせありがとうございました。絵本は読むのも聞くのも大好きです。高齢者にもよい刺激があげられたらいいなーと思うので、読み聞かせをしていきたいと思ます。●お昼休憩時のネイル体験は、とても、とても、うれしかったです。
- 高齢者向けの人気絵本や紙しばいなどおすすめおしえてほしい。
- 他のサロンとの交流はとても勉強になりました。自分自身が勉強することで、新しいチャレンジにつながると思います。ボランティアもマンネリ化しないように必要な時間だと思いました。●お昼からだけの参加で申し訳ないです。
- 他のサロン等の悩みを少し知る事が出来ました。新しい体操のDVDはほしいなー。
- 今回盛りだくさんすぎて、すべて時間に追われてた。自分の意見を言う時間もない。(まとめる事が出来なかった)他の人の話ももう少し聞きたかった。
- もう少し各サロンの内容を話し合いの中で知りたかったです。
- 他の地域の方々の意見もいろいろ聞くことができて良かった。あらためて「ボランティアをたちあげる」という意味を考えさせられた。
- 時間が足りない!!!もっとほかのサロンの内容や問題点聞きたかった!!!

参加者へのプレゼント [講師おススメの中から自分で選んで頂いた絵本1冊]



坂田



各サロン団体へのプレゼント [消耗品一式セット]

- ・トイレットペーパー ・テッシュ
- ・アルコール消毒 ・ハンドソープ
- ・食器洗スポンジ ・食器洗剤
- ・キッチンペーパー ・ラップ
- ・台ふき ・ゴミ袋 ・一斤袋 ・二斤袋
- ・クリアケース





## 9. 福祉育成援助活動事業 結のまちづくり推進

【財源：赤い羽根共同募金配分金・寄附金・会費等】



目的：地域内で発生している福祉課題を地域住民全体の問題としてとらえ、住民全体の問題としてとらえ、住民相互の助け合い・ふれあい活動を基本に解決できるよう、地域支え合い体制の基盤づくりを推進する。

内容：実施場所 竹富島・小浜島・黒島・西表島 結のまちづくり助成金交付地区 他

実施日 令和2年4月～令和3年3月

- ・事業説明、及び相談対応
- ・結のまちづくり活動助成団体への支援

事業実績：コロナ禍での交付式・事業説明会・座談会が中止。

実施団体及び、次年度申請団体へは電話、窓口相談等での予約受付対応。

### (相談対応した団体)

- ・竹富老人クラブ（電話・窓口対応）
- ・小浜島ふあまあ会（電話対応）
- ・小浜ミニバスケットボール（電話・窓口対応）
- ・五感を育む会（電話対応）
- ・細崎青年会（電話・窓口対応）
- ・古見・美原子ども会育成会（電話対応）
- ・上原老人クラブ（電話・窓口対応）
- ・鳩間子ども会・育成会（電話対応）
- ・鳩間公民館（電話対応）
- ・波照間地区食改善推進員（電話対応）
- ・大原子ども会・育成会（電話対応）
- ・祖納老人クラブ（電話対応）
- ・織・藍好会（電話・窓口対応）
- ・大原婦人会（電話対応）
- ・西表西部・ニコニコ応援隊（電話・窓口対応）
- ・小浜婦人会（電話・窓口対応）



## 10、共同募金運動の推進

【財源：県協募事務費（共募会計）・歳末助け合い募金】



目的：竹富町共同募金運営委員会で決まった事業計画に沿って、住民参加のもと募金運動に取り組む。

内容：実施場所 竹富町全域・石垣市

実施日時 令和2年10月1日～12月31日

実施方法 戸別募金・法人募金・学校募金・職域募金・個人募金・その他

事業実績：

### ① 沖縄県共同募金委員会受賞報告及び、伝達式



- 1) 一般篤志寄付者（金額に関わらず10年以上寄付を継続）…法人11団体  
高那旅館、西表島交通(株)、(株)東部交通、(有)伊良部砕石、瀬戸商店、(有)石垣設計室、(株)メンテック、八建実業(株)、(有)南成土建、(有)大三電設、(有)西里測量設計
- 2) 奉仕功労者・団体（10年間に亘って奉仕活動）…2団体  
(団体)竹富町立波照間小中学校児童生徒会、竹富町立白浜小学校児童会

### ② 共同募金出発式及びボランティア推進校交付式

日時：令和2年10月1日（木）

場所：黒島小中学校 ピロティー

参加者：児童生徒・先生・地域民生委員児童委員



④ 募金箱の制作 [鳩間小中学校]



↑ 共同募金ミニ講話



↑ ペットボトルで募金箱作成



↑ 完成

⑤ 募金箱設置 [平成 30 年度 53 ヶ所設置]  
[令和元年度 57 ヶ所設置]  
[令和 2 年度 60 ヶ所設置]



⑥ 街頭募金活動 [黒島小中学校・大原中学校・大原小学校・船浮小学校・白浜小学校]



⑦ 共同募金運営委員会の開催 (年 3 回)  
共同募金審査委員会の開催 (年 2 回)

⑧ 啓発活動 [事業実施等に合わせて、事業についての周知活動]

⑨ 募金贈呈式の開催

12月7日 小浜小中学校 18,919円



12月11日 竹富町商工会建設業部会 500,000円



1月14日 大原中学校 166,114円



1月18日 上原小学校 19,914円



1月18日 西表小中学校 7,792円



1月21日 波照間小中学校 25,286円



2月22日 竹富小中学校 112,077円



3月10日 古見小学校 17,159円



・今年度は各島の小中学生が手作りした募金箱を、自分たちの手で各島のお店に設置して頂きました。また、新型コロナウイルス感染症対策を万全にし、募金活動に臨んだ結果、たくさんの思いやりを頂くことが出来ました。

・コロナ禍ではありましたが、校長より子ども達へ社協からぜひ挨拶もいただきたいという声も多くあり、状況をみながら交付式を行うことが出来ました。

・贈呈式を行うことで、先生方、子ども達の募金に対する意識が年々強くなってきていること、募金活動が引き継がれていることを感じています。

・竹富町商工会建設部会からは毎年恒例の500,000円の町の社会福祉向上を願った募金を頂き、町長を含め建設部会参加者と共に情報交換会を行い親睦が深められました。



⑪ 募金額

**【赤い羽根共同募金】**

年度	目標額	実績	達成率
28年度	2,050,000円	2,193,291円	107%
29年度	2,079,000円	2,201,105円	105.9%
30年度	2,062,000円	2,836,409円	137.6%
令和元年度	2,060,000円	2,895,571円	140.6%
令和2年度	2,053,000円	2,875,368円	140.1%

(内訳)

戸別募金：443,810円                      職域募金：146,000円  
 学童募金：461,878円                      法人募金：1,724,000円  
 個人募金：31,260円                        その他：68,420円

**【歳末助け合い運動】**

年度	目標額	実績	達成率
28年度	850,000円	1,085,085円	127.7%
29年度	900,000円	1,297,527円	144.2%
30年度	900,000円	1,492,136円	165.8%
令和元年度	1,000,000円	1,274,419円	127.4%
令和2年度	1,000,000円	1,606,115円	160.6%

(内訳)

戸別募金：446,500円                      職域募金：158,570円  
 法人募金：971,500円                      個人募金：29,545円

- ・ 区長会議をはじめ、各事業に合わせて共同募金の周知活動、新聞掲載等を行うことで日頃から地域住民へのお礼、協力願いを丁寧に行いました。
- ・ 事務局内での募金活動の準備、協力体制を強化。法人含めて地域住民のご理解、ご協力もあり、目標額を達成できました。
- ・ ボランティア指定校だけではなく、学童募金の贈呈式を行う学校の増加、また指定校外でも街頭募金をするなどの自主的取り組みもありました。

## 1 1、歳末たすけあい配分事業 義援金配分 【財源：歳末助け合い運動募金】



目的：新年を迎える時期に、生活困窮世帯（非課税世帯）で支援を必要とする人たちが地域で安心して正月を迎えられるように、歳末助け合い募金の一部を配分する。

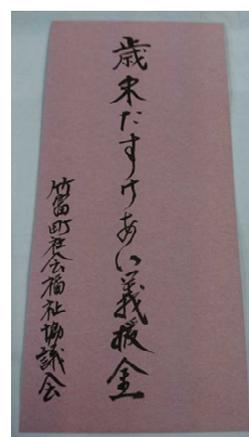
内容：実施場所 竹富町全地区

実施日時 令和2年12月下旬

実施方法 区長民生委員による配分対象者調査後、実施要領に基づき配分額、配分対象者を決定する。

### 事業実績

【平成29年度】	一人当たり	15,000円	計50名
【平成30年度】	一人当たり	10,000円	計55名
【令和元年度】	一人当たり	10,000円	計50名
【令和2年度】	一人当たり	10,000円	計71名



●竹富地区 9名	●小浜地区 9名
●細崎地区 2名	●黒島地区 3名
●大原地区 7名	●豊原地区 2名
●大富地区 4名	●古見地区 7名
●美原地区 1名	●上原地区 1名
●祖納地区 2名	●住吉地区 2名
●干立地区 1名	●白浜地区 5名
●波照間地区 13名	●新城 1名
●鳩間地区 2名	



- ・要項（県）の実施方針によると、義援金配分の縮小及び地域づくり事業等への配分拡大が明記されているため、年末年始に地域で開催される行事等へ重点的に行っている。
- ・義援金配分額が他市町村より多かったこと（他市町村は5千円程度、もしくは物品）、ふれあいイベント助成申請団体が増加してきたこともあり、平成30年度からは10,000円。
- ・コロナ禍もあり、貸付利用者も対象も審査し事務局より指定口座へ入金しました。
- ・次回からは、見守り状況把握も兼ねて民生委員児童委員より配布。

## 12, 歳末たすけあい配分事業 ふれあいイベント助成 【財源：歳末助け合い運動募金】



目的：竹富町の高齢者、障がい者、子どもなど、誰もが地域社会の一員として安心して新年を迎えることができるよう、住民の主体的な参加により地域で実施される福祉活動を支援・推進することを目的とする。

内容：実施方法 実施要領に基づき配分額、配分団体を決定する。

(各団体及び申請額)

- ① まーまーず 12,000円 お楽しみ会
- ② 小浜老人クラブ 30,000円 老人会とちゅらさん会合同交流会
- ③ 小浜スポーツ少年団ミニバスケットボールクラブ 30,000円 年忘れ交流練習試合
- ④ 細崎公民館 30,000円 細崎グラウンドゴルフ大会
- ⑤ 黒島公民館 30,000円 牛汁配布会
- ⑥ 黒島子ども会育成会 25,000円 クリスマス会
- ⑦ 豊原子ども会育成会 30,000円 クリスマス会
- ⑧ 大原子ども会育成会 30,000円 クリスマス会
- ⑨ 大富子ども会育成会 30,000円 新年お楽しみもちつき会
- ⑩ 古見・美原子ども会育成会 30,000円

クリスマスケーキを作ろう！プレゼントしよう！

- ⑪ こみゆサロン 10,000円 GoTo サロン
- ⑫ 美原公民館 30,000円 年末大掃除&忘年会
- ⑬ 船浦公民館 27,462円 新年凧揚げ大会
- ⑭ 竹富町立船浦中学校 10,000円 南風見苑清掃ボランティア
- ⑮ 上原公民館 25,604円 凧作りを通して上原を学び、上原になじむ
- ⑯ 西表西部・ニコニコ応援隊 30,000円 西表西部ニコニコクリスマス会
- ⑰ 上原老人クラブ 30,000円 地域(世代間)交流新春大会ゲートボール大会
- ⑱ 干立公民館 30,000円 大忘年会
- ⑲ 干立婦人会 30,000円 新年会舞踊に向けた着付け・髪結い教室の開催
- ⑳ 干立子ども会育成会 30,000円 クリスマス会
- ㉑ 結の会 30,000円 保育園児との交流会
- ㉒ 祖納婦人会 10,364円 婦人会と老人クラブ交流会
- ㉓ 白浜婦人会 29,885円 クリスマス会・交流会
- ㉔ 船浮公民館 30,000円 新年お楽しみ会
- ㉕ 鳩間公民館 22,992円 年末グランドゴルフ大会
- ㉖ 鳩間子ども会育成会 30,000円 旧正月の凧揚げ
- ㉗ 波照間青年会 20,000円 島内子ども会を対象としたクリスマス会

合計 703,307円

### 13. 生活困窮者等への支援 【財源：会費、寄付金、歳末たすけあい】



#### ①法外援護事業 ②フードバンクの設置

目的：生活保護法、その他社会福祉関係法による適用の対象とならない一般生活困窮者に対し、予算の範囲内で金品等の支給措置を講じ、緊急かつ一時的に支援を行う。

対象者：①竹富町に住んでいる者 ②被援護世帯であり、突発的に支援が必要な者  
③その他、会長が認める被援護者

援護内容：突発的緊急時に伴う医療関係機関受診に係る船賃（実費負担）  
突発的緊急時に伴う食材等の現物給付 支給限度額は 5,000 円とする

事業実績：平成 30 年度 3 件  
男性 2 人（現金 5,000 円、3 日分の食料）（2 食分）  
女性 1 人（現金 5,000 円、4 食分）  
令和元年度 0 件  
令和 2 年度 0 件

#### [在庫状況]

- ・アレルゲンフリーカレーライス 20 個
- ・アレルゲンフリーカレーライス 20 個
- ・玉子丼 20 個           ・鶏そぼろ玉子とじ丼 19 個
- ・きのこ丼 20 個       ・豆腐丼 20 個
- ・豚丼 20 個            ・すきやき丼 19 個
- ・缶詰パン ディニッシュプレーン味 24 缶
- ・缶詰パン ディニッシュメープル味 24 缶
- ・米粉クッキー プレーン・かぼちゃ&人参
- ・ほうれん草 50 個



## 1 4, 生活福祉資金貸付事業

【財源：県社協受託金】

目 的：町内低所得者の自立更生を図る

内 容：実施場所 竹富町全域

実施日時 令和2年4月～令和3年3月

対象者 生活福祉資金長期滞納者、町内生活困窮者 他

事業実績：一般貸付



年 度	償還指導	償還完了	貸付相談
平成30年度	8名（延べ51件）	0名	5名（延べ29件）
令和元年度	9名（延べ50件）	4名	3名（延べ5件）
令和2年度	5名（延べ6件）	0名	5名（延べ12件）

※令和3年3月5日付

緊急小口資金（特例貸付）

72件 14,250,000円

総合支援資金（特例貸付）

51件 25,050,000円

総合支援資金延長（特例貸付）

28件 13,350,000円

※令和3年3月31日決定分……合計156人

緊急小口資金（特例貸付）

労金・ゆうちょ銀行 申請 16人

竹富町社会福祉協議会 申請 63人

償還完了 1人

総合支援資金（特例貸付）

初回申請 55人

延長申請 32人

再貸付申請 6人



- ・ 定期的な償還指導を行うことで、信頼関係づくりに努めました。
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響により収入減となった世帯を対象に、令和2年3月25日から令和3年6月末まで緊急小口資金及び総合支援資金の特例貸付を実施。
- ・ 担当者だけでは対応が困難な為、事務局職員で相談対応を行い、担当者が最終確認し県へ申請手続きを行ったりと、事務局内で協力して業務対応継続中です。

## 15, 戸別総合相談事業

【財源：会費、寄付金、町補助金】

目的：制度の狭間にある方の日常生活におけるさまざまな心配ごとや、困りごとの相談に応じ、助言や諸制度の紹介、又関係機関等へつなぐ調整を行い、誰もが安心して暮らせるまちづくりの推進を図る。

内容：実施場所 竹富町全域  
実施日時 令和2年4月～令和3年3月  
実施方法 ① 戸別訪問による気になる家庭への支援  
② 民生委員と気になる家庭への同伴訪問  
③ 関係機関との情報交換  
④ 社協内相談窓口での相談受付

### 事業実績

年度	訪問	電話	来所
平成30年度	1名（延べ1件）	3名（延べ10件）	0名
令和元年度	0名	6名（延べ12件）	0名
令和2年度	2名（延べ3件）	4名（延べ7件）	1名（1件）



- ・傾聴をして、本人の気持ちを整理し不安を少し取り除くことに努めました。
- ・サービスや制度（フードバンク・生活保護）等の情報提供や、電話対応だけでなく、必要に応じて担当者を交えて訪問を行いました。
- ・地域ケア会議に参加し、関係機関との情報交換、情報把握に努めました。

## 16、日常生活自立支援事業の推進 【財源：県社協受託金・寄附金・会費等】



### <目的>

認知症高齢者、知的障がい者、精神障がい者など判断能力が不十分な方々が地域において安心し自立した生活が送れるように、本人との「契約」に基づき支援する

### <内容>

実施期間：令和2年4月1日～令和3年3月31日

実施方法：判断能力が不十分な方に対し、福祉サービスの利用に関する相談に応じ、及び助言を行い、並びに福祉サービスの提供の提供を受けるために必要な手続き又は福祉サービスの利用に要する費用の支払いに関する便宜を供与することその他福祉サービスの適切な利用のための一連の援助を一体的に行うものである

### <事業実績>

#### 1. 相談援助件数累計（問い合わせ・相談援助件数）

単位：件

内 容	本事業の利用に関するもの				合計
	事項／対象	認知症高齢者	知的障がい者	精神障がい者	
問い合わせ件数	0	0	0	0	0
初回相談件数	1	0	0	1	2
相談援助件数	0	7	0	10	17
合 計	1	7	0	11	19

契約締結件数	0	0	0	0	0
--------	---	---	---	---	---

#### 2. 関係機関連絡会議・研修会等への参加等

##### (1) 関係機関連絡会議・研修会等への参加等

No	日時	場所	議題・内容
1	7月16日	小浜診療所	小浜地区・地域ケア会議
2	7月29日	離島総合センター	西表東部地区・地域ケア会議
3	9月15日	祖納公民館	西表西部地区・地域ケア会議
4	9月1日～16日 10月19日	ワンデマント配信	令和2年度日常生活自立支援事業 専門員実践力強化研修会 I

5	9月14日～27日 28日、29日	ワンデマント配信 ライブ配信	令和2年度 成年後見制度利用促進体制整備研修 成年後見制度、権利擁護、関連制度等について 中核機関の役割
6	10月2日	竹富診療所	竹富地区・地域ケア会議
7	11月18日	小浜公民館	小浜地区・地域ケア会議
8	12月18日	竹富診療所	西表西部地区・地域ケア会議
9	12月22日	オンライン	令和2年度日常生活自立支援事業オンライン意見交換会
10	1月18日	オンライン	令和2年度権利擁護オンラインセミナー
11	1月19日	オンライン	令和2年度社協における法人後見推進勉強会
12	2月24日	離島総合センター	西表東部地区・地域ケア会議
13	3月11日～19日	動画配信	令和2年度 日常生活自立支援事業 専門員研修
14	3月16日	黒島 芸能館	黒島地区・地域ケア会議

## (2) 広報啓発活動等

○社協だより掲載

○ケア会議等での事業説明、チラシ配布等

### <課題>

- ・相談、問合せはあっても事業の対象者でないケースや、内容が更に深刻な状態の場合もあり、実際に日自の契約締結にいたっていない。

### <目標>

- ・事業を必要としている方達が制度を知らずにいる場合もある。また、近隣の住民等見守る人達の中で制度を知っている人がいれば、より支援に繋がりやすくなる。そのために、事業についてわかりやすいようなチラシ作成や広報に載せる等の定期的な周知活動を行う。
- ・住民の声に耳を傾けながら、課題を拾い、解決に向け、関係機関との連携をおこないながら、島で安心して暮らしていくために、どうしたらいいのか考え、寄り添った支援が出来るように努めていくことが重要である

## 17、生活支援体制整備事業の推進

【財源：竹富町受託事業】

### ①介護保険制度の動向

平成27年度の介護保険制度改正により、高年者の多様な日常生活を支える仕組みを充実させること、生きがいや介護予防につながる社会参加の機会を確保することを一体的に推進するために、「生活支援体制整備事業」が創設。

本協議会では、この取り組みを竹富町からの受託事業として、実施

### ②竹富町の福祉の特徴

各島々によって福祉要求が違うこと。また、多様なニーズが有りながらも不採算などの理由で福祉制度サービスが参入しにくく、使えるサービスが限られている。

#### <目的>

高齢者をはじめとした住民が地域社会に関わることで住民同士のつながりが深まり（社会参加）、それが心や身体健康維持（介護予防）、ひいては支え合い（生活支援）につながっていくことを推進する。高齢になっても住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる「地域づくり」を目指す。

<実施期間> 令和2年7月1日～令和3年3月31日

#### <役割>

既存の資源を把握し、地域に不足するサービスの創出やサービスの担い手の養成等の資源開発や関係者間の情報共有やサービス提供主体間の連携の体制づくりなどのネットワーク構築を進める

- ① 地域資源・社会資源の把握
- ② 生活支援ニーズの把握・共有
- ③ ネットワークの構築
- ④ 活動の場・担い手の発掘

#### <活動実績>

・ 通いの場への訪問 → 体操教室、サロン等への訪問、参加
・ ネットワーク構築 → ケア会議等への参加
・ 資源開発、お宝さがし → ご近所づきあい、近所の集まり、見守り活動 ゲートボール、グランドゴルフ、おすそ分け 等
・ 黒島、西部ゆいまーるワークショップへの参加、支援
・ 生活支援コーディネーター研修受講



- ・ コロナの影響で自粛もあり、頻繁に地域へ行くことができなかった。
- ・ 実際に通いの場や会議へ参加をし、個別事例の検討の積み重ねや地域の方と接し、情報を共有することで地域の特徴や変化、課題への気づきがあった
- ・ 地域をまわることで、今まで気づかなかった住民同士のつながりや集まりの場など、地域資源の発見、新たな資源開発を行った
- ・ ゆいまーるワークショップやケア会議等、福祉課題や個別事例を話し合う場を通じて関係機関とのネットワークの構築、体制・連携強化を行った
- ・ ワークショップ等を通して地域リーダーの発見、発掘につながった

#### <目標>

普段の暮らしの中の住民同士のつながりが孤立を防ぎ、見守りにつながっているということに住民が気づき、意義のあることだと認識すること。地域ニーズや情報を把握することで、地域支援や福祉サービスの提供、また住民同士助け合いができるような地域づくりに取り組めるよう支援する。そして、島に住み続けるために、住民が地域課題に気づき、解決するための組織づくりや活動の可能性を引き出す。

地域にある資源の見える化、共有化を行うことで、住民同士の意識の向上につなげ、見守り活動や安否確認への発展や、地域住民同士で課題解決に向けての話し合いの場や居場所づくり等、地域ならではの支えあいの仕組みづくりの推進を行い、住民が主体となって取り組めるような地域にしていくこと。

地域リーダー、担い手の発掘や養成を行い、支えあい、見守り、協議体への地域体制整備の強化を行う

## 18、社協会員募集推進

【財源：寄付金・会費等】

目的：町内地域福祉の積極的な推進における財源確保のため、社協の活動と趣旨を住民に啓発し、会員募集推進を図る。

実施場所 竹富町全域

実施期間 令和2年4月1日～令和3年3月31日

(強化月間 4月～7月)

実施方法 各地区区長、法人等に依頼文書を発送  
会員募集チラシの配布

### 事業実績

(円)

年 度	戸別会員	賛助会員	特別会員	合計
1年度	491,500	89,000	420,000	1,000,500
2年度	443,500	81,000	400,000	924,500

- ・今年度は新型コロナウイルス感染症の流行に伴いご協力が難しかった地域があった。
- ・今年度、小中学校は地域でご協力いただいた学校もあったが、全学校からの協力はなかった。
- ・役場、1課ご協力いただけず。

### 《今後の課題》

- ・会員増に向け、今後の周知方法の見直し検討が課題である。
- ・賛助会員・特別会員の増に向けた取り組み強化が課題である。
- ・令和2年度は新型コロナウイルス感染の影響で会費収入がさがったが、今年度は例年通り周知を行い、校長会や区長会議でも声掛けを行ない、ご協力いただけるよう取り組んでいく。

## 19. ふれあいサロン事業

### 令和2年度 竹富町ふれあいサロン事業実績報告書

【事業目的】 住み慣れた地域で、いつまでもいきいきと住み続けられること。地域でのしみ、生きがい、社会参加を促し「引きこもり・閉じこもり」等、孤立しがちな人たちが気軽に集まれるサロン活動を支援し、楽しく明るい地域づくりに寄与することを目的とします。

【事業実施期間】 令和2年4月1日～令和3年3月31日

【実施内容】 ①レクリエーション、手工芸（合唱・踊り・ゲーム・習字・工作等）  
②園児・小中学生との交流会（ふれあいインタビュー・手遊び・ゲーム等）  
③クリスマス会・誕生会  
④遠足（島内）  
⑤グランドゴルフ・ゲートボール・ペタンク等  
⑥料理教室・健康体操・脳トレ・カラオケ等

地区	実施グループ名	実施場所	実施日	活動時間	実施回数	登録者数	利用延数	ボランティア登録数	ボランティア延数
東部	あしながおばさんの会	離島総合振興センター	第2月曜日	10:00～13:30	6	20	63	10	57
西部	人生ゆいまーるの会	海人の家	第3火曜日	10:30～13:00	6	9	42	6	9
西部	結の会	祖納公民館	第3木曜日	10:00～13:00	8	12	62	9	56
竹富	ほほえみの会	コミュニティーセンター	月1回	10:00～13:00	7	11	62	8	50
竹富	まーまーず	ゆくい処	毎週木曜日 (第3木曜休)	10:00～14:00	25	12	248	4	69
東部	豊原しらゆり会	開拓の里	第2・4金曜	14:00～16:00	14	6	60	2	14
東部	大富ふれあいサロン	大富公民館	第3水曜日	13:30～15:30	6	10	17	6	23
東部	大原ばいぬサロン	大原公民館	第2水曜日	13:30～15:30	6	10	27	4	19
東部	こみゆサロン	美原公民館	第2水曜日	10:00～14:00	7	15	51	2	10
波照間	ハイビスカスはーもにー	ふれあいセンター	月1回	AMorPM2時間	5	13	37	4	11
	総計				90	118	669	55	318

## 【事業成果】

- ・ゆんたく、軽体操、ゲーム、カラオケ、脳トレなど、ボランティアの工夫によって、参加者がサロンを楽しみにしている。
- ・今年度はコロナ禍で開催できない期間があったが、配食やお知らせ配布時等の安否確認や体調変化等の観察、異変があればすぐに対応できる体制ができていた。
- ・コロナウイルス感染症拡大防止のため、検温、消毒、マスク着用を徹底して実施。自粛生活のなか久しぶりに皆で集まって話をするだけでも楽しく、笑顔になり、よい刺激になっていた。
- ・体操や脳トレ、手指の運動等がコミュニケーション作りや体力維持と増進に役立っている。椅子からの立ち上がりが困難だった方がいまではスムーズに立てるようになっている。
- ・利用者とボランティアと一緒に楽しく活動出来、住民主体で活動するサロンが増えた
- ・サロン開催にあたり、ボランティアや利用者の何気ない動作や言葉から地域課題に気づく場合もあるため、地域の方に声掛けをし、声を聞き、解決に向かって支援し、関係機関へ繋げていく
- ・園児や小中学生等、地域の子供たちとの交流から、日常生活でも声を掛合う習慣が出来る等、きっかけづくりに繋がった
- ・ボランティア同士の情報交換会を行い、他地域との交流や情報交換が出来、ボランティアの意識向上や活動の刺激に繋がった。

## 【課題】

- ・コロナウイルス感染拡大防止や施設の建て替え（竹富・高齢者コミュニティセンター）に伴い、思うように活動ができない状況にある。
- ・高齢化に伴いボランティア、利用者ともに次の世代が居ない状況にある
- ・どのサロンからも、利用者からもっと開催数を増やして欲しいという要望があるが、ボランティアの多忙、高齢化等により月1回開催するのが精いっぱいというサロンが少なくない。
- ・年々各サロンでは、ボランティア、利用者の高齢化に伴い見守りや付添等が増え、ボランティアの負担が増えている。
- ・レクのマンネリ化や利用者の高齢化による体力低下等により活動の範囲に制限が生じ、利用人数が減少傾向にある
- ・昼食づくりのみのボランティアもあり、ボランティア全員がレクに参加できていなく、利用者とのコミュニケーションが不足しているところもあり、利用者から不満がでている
- ・地域内でのコミュニケーションで小さな誤解が生じる場合があり、円滑でない場合がある
- ・以前は出来ていた活動が、近年「目が見えない」「手が動かない」「長時間歩けない」「得手不得手」等で活動に制限が生じる利用者が増えている。出来る人と出来ない人の差が大きく、内容によっては配慮が必要な場合が増えている

### 【今後に向けて】

- ・ ボランティアが活動しやすいように、また参加者が増えるような活動計画の見直しなど可能な限りの解決に向けて支援を行っていく。
- ・ 限られた活動でも出来ることを見つけ、満足出来るよう支援を行っていく
- ・ 地域にはまだ、活動に参加されていない方も多くいるので、ボランティアと協力しながら、参加されるように支援を行っていく
- ・ 他地域のボランティア同士の研修や交流の場をつくり、活動の活性化、ボランティアの育成、新規ボランティアの獲得に向けて支援を行っていく
- ・ 声掛け、見守り、送迎等ボランティアの負担が多い為、軽減を図れるよう他事業と連携を図りながら、引き続き支援していく
- ・ ボランティアの気持ちと利用者の気持ち、地域特性等それぞれ違くとも、皆が満足し、楽しめるように支援を行っていく
- ・ ボランティアと利用者という区別があるためボランティアの負担が大きくなっている。ボランティア自身も無理なく継続し、楽しくサロン活動が出来るように支援を行っていく。
- ・ 新規サロンが立ち上がったので、引き続き話し合いながら可能な限りの支援や活動計画の見直しなどを行っていく。
- ・ 新規サロン開設に向けて地域住民、担当機関と話し合い支援を行っていく。
- ・ コロナウイルス感染に留意し、検温、手洗い、消毒、マスク着用を徹底し実施していく。

### ～ 活動写真 ～



## 20、車椅子貸出事業

目的：一時的に車椅子を必要とする人に対し、車椅子を貸出しすることにより日常生活の便宜を図り、その福祉の増進に資する。

対象者：竹富町内に住所を有し、一時的に車椅子を必要とする者。  
他、会長が認める者。

事業実績：竹富町社会福祉協議会事務所内車椅子使用車数

平成30年度 15名

令和元年度 4名

令和2年度 13名

車椅子設置場所・台数：

- 竹富町社会福祉協議会事務所 3台
- 波照間島 すむづれの家 3台
- 竹富島 竹富港ターミナル 1台
- 西表島（東部） 西表事業所さみん 3台
- 鳩間島 鳩間港ターミナル 1台
- 黒島 黒島港ターミナル 1台
- 小浜島 小浜港ターミナル 1台
- 西表島（西部） 西部出張所 1台、上原港ターミナル 1台、船浮公民館 1台

計 16台

- ・不定期に車椅子の状況確認を行いました。
- ・1台寄付（一般社団法人 那覇市垣花奉頌会）、1台購入（財源：赤い羽根共同募金福祉育成援助事業）。
- ・3台を経年劣化により廃棄しました。



## 2 1, 関係機関への参加協力等

目 的：ゲートボール大会や研修会の際に職員派遣要請があった場合、参加協力し、イベント運営を支援する。

実施場所：竹富町内

事業実績：

団体名	内 容	内 容	参加協力 人数	開催日	開催場所
竹老連	第 26 回竹富町長杯グラ ンドゴルフ大会	当日参加 協力	3 名	令和 2 年 11 月 17 日	・竹富町立交流セ ンター

※新型コロナウイルス感染症の影響により、毎年参加協力を行っているイベント（障がい者スポーツ大会、やまねこマラソン、八重山地区老人芸能大会等）は軒並み中止でした。

## 2 2, その他

- ・竹富町民生委員児童委員協議会への協力（会計補助・事務補助）
- ・八重山地区民生委員児童委員協議会（会計）

## 23. 離島等相当通所介護事業・予防介護事業(さみん)

### 《通所介護とは・・・》

通所介護は『デイサービス』と呼ばれることが多く、利用している目的は利用者さんにより異なりますが、主な目的は下記の通りです。

- ・簡単な体操やゲームを通して身体機能の維持向上
- ・脳トレ等を通して認知機能の維持向上
- ・自宅での入浴が困難な方や支援が必要な方の入浴
- ・栄養が考えられた食事
- ・引きこもりの予防と社会参加
- ・利用者さんご本人の息抜き
- ・ご家族の介護負担の軽減

### 《提供時間と営業日・実施場所・定員》

さみんでは 10:00～16:00 の 5 時間以上 6 時間未満でサービスを提供しています。営業日は各島で異なり、3ヶ所共に 1 日の定員は 10 名 です。

- ・竹富島(ゆくい処)・・・月・火・水・金の週 4 日
- ・黒島(ういぬ家)・・・月・水・金の週 3 日
- ・西表東部(総合センター老人室)・・・火・木の週 2 日

### 《1 日の流れ》

- 09:00～送迎(車で自宅までお迎えに伺います。)
- 10:00～お茶を飲みながらバイタルチェック
- 10:30～入浴・体操・脳トレやゲーム等のレクリエーション
- 12:00～全員で昼食
- 13:00～お昼寝
- 14:30～体操・脳トレやゲーム等のレクリエーション
- 15:00～おやつ
- 15:20～体操・脳トレやゲーム等のレクリエーション
- 16:00～送迎(車で自宅までお送りします。)

◎地域の方が三線を弾きに来てくださったり、学校や保育所の子ども達が交流に来てくださったりする事もあります。コロナが収束したら、気軽に交流に来ていただきたいです。

### 《事業実績》

・地区別利用者人数

令和2年度 令和3年3月末時点

(人)

	竹富島	黒島	西表東部	合計
事業対象者	0	1	0	1
支援1・2	2	0	7	9
介護1～5	8	3	8	19
合計	10	4	15	29

平成31年度(令和元年度) 令和2年3月末時点

(人)

	竹富島	黒島	西表東部	合計
事業対象者	0	1	2	3
支援1・2	3	1	6	10
介護1～5	9	2	4	15
合計	12	4	12	28

・地区別登録スタッフ人数(送迎・調理スタッフ含む)

令和2年度 令和3年3月末時点

(人)

竹富島	黒島	西表東部	石垣
8	4	7	5

平成31年度(令和元年度) 令和2年3月末時点

(人)

竹富島	黒島	西表東部	石垣
7	4	7	3

## 《成果と課題》

新型コロナウイルス感染症の対応で島外に出たスタッフが急遽自宅待機になったり、営業を入浴のみに縮小・閉所したりと、数日単位で職員の配置や営業について検討しなければならず苦労しました。利用者さんやご家族には迷惑をかけ、各島のスタッフからは何度も変わる対応に苦労したと聞いています。また船も減便していたため、石垣スタッフは時間外労働がとて増えましてしまいました。

石垣スタッフが4月と7月に1名ずつ増えて5名になり、前年度よりは有給や代休が取れるようになりました。しかし、スタッフによってはまだまだ取れていないのが現状です。休みが取りやすいように勤務も組まなければいけないと思っています。

## 【竹富】

ストレッチャーでの入浴ができるよう2つあった浴槽を1つ撤去してもらいストレッチャーも購入し、ベッドの高さが変えられるよう電動ベッドを購入し交換してもらおう等、議員さんの働き掛けもあり介護度の高い利用者さんも利用しやすいようになりました。

利用者人数は入院等で減ってはいますが、新規の利用者さんも増えています。どの曜日も定員に数人の空きはありますが、ほとんどの利用者さんが毎回(週4日)利用されています。

スタッフ人数に大きな変化はなく週1回の出勤スタッフもいますが、現地スタッフ同士で休みの調整をする等、連携は取れていると思います。

業務用エアコンが1機故障しており家庭用エアコンを全機稼働させていますが、利用者さんやスタッフの熱中症が心配ですし電気代もかかっているかと思います。暑い時期になってきているので、早急に修理が必要かと思います。

洗面台の水道が1ヶ所故障しており使用できません。前以上に重要な手洗いうがいをするのに支障が出ているので、こちらも早急に修理が必要かと思います。

## 【黒島】

スタッフ人数・利用者人数共に変わりはありません。利用者さんが増えず、なかなか収入の増は見込めません。

スタッフに関しては調理スタッフが2名・介護スタッフ2名で、介護スタッフから出勤日数を減らしてほしいとの希望があり、毎回石垣スタッフが行っているのが現状です。現地スタッフを増やそうと現地スタッフから島の方へ声掛けをしてもらってはいますが、なかなか見つからず苦慮しています。

以前より浄化槽に木の根が生えており、お風呂場等の水の流れが以前にも増して悪くなってきました。工事(修理)の検討が必要かと思います。

車1台がドア故障のため助手席側からしか開けられず、錆もひどい状態です。全ての修理にはお金がかかりそうなので、新しい車の購入検討が必要かと思います。

## 【西表東部】

前年度と変わらず、定員が常にいっぱい状態です。ケアマネージャーからは、利用回数を増やしたい利用者さんや新規で利用したい利用者さんがいるとの声もありますが、空きが出るのをお待ちいただいている状況です。

トイレやお風呂へ行くのに靴を履き1度外に出て10m程歩かなければならず、『遠いから大変だ。』『冬は寒くてトイレやお風呂に行きたくない!』と何人もの利用者さんが話されています。利用者さんによってはトイレに行く回数を減らすため水分量を減らす方もおり、とても苦慮しています。1年を通して熱中症や脱水にならないように気を付けて声掛け等してはいますが、なかなか厳しいです。また、この造りのためにスタッフの人数がたくさん必要なのも事実です。

老人室はデイサービスを開催するには狭く、段差もある為、10名定員では危険な事が多々あ

ります。今後、安全に開催するためと利用枠の確保のために、定員を減らして開催日を増やす等の検討が必要かと思えます。

大原に複合施設ができると聞き、利用者さんやご家族・地域の方・スタッフ等が心待ちにしておりましたが、さみんは使えないと役場から言われ、全員が本当に大きなショックを受けました。保育所が複合施設へ移動後は、保育所だった施設をリフォームしてさみんで使えるようにするという案もあるようですが、大掛かりなリフォームが必要になると思うのでまだまだ今の場所で開催しなければなりません。そのため、利用者さんには今後も様々な我慢をしていただかなければならないのが本当に心苦しいです。



登録ヘルパー数	6	1	3	1	2	0	1	14
---------	---	---	---	---	---	---	---	----

訪問介護は急に利用者さんが増えて忙しくなったと思えば、お亡くなりになったり、施設入所などでいなくなり暇になってしまい、安定した事業運営ができない。

令和2年度・・・新規利用者数 9名 お亡くなりになった方・・・7名 施設入所・・・2名

エアコンの無い家でのマスクをしての掃除や入浴介助は、窒息しそうになります。早くコロナが収束しますように。

各島に拠点が無いので、移動の車内が休憩場所になっている

## 23. 訪問介護事業(訪問介護ステーションさみん)

### ○訪問介護でのよいところ…

利用者さんとマンツーマンで接することが出来る  
何かと頼りにされる  
ゆっくりとかかわることが出来る

### ●訪問介護で困ったところ…

訪問介護でできないことを求められる…お金を下してきてほしい、診療所へ連れてって、港まで車で連れて行って等

時間が足りなくなることがある…食材がないので買い物から始まる、壊れた調理器具を使用しなければならぬ、1時間の中で掃除、洗濯、調理をしないとイケない

一人なので助けを求められない…卑猥な言動、行動などのセクハラ対応。利用者さんの意思の尊重をどこまでするか。(入浴拒否)

#### 【事業実績】

地区別利用者人数内訳

令和2年3月統計

#### 介 護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
要介護	8	1	0	4	0	0	13
要支援	1	3	2	2	6	0	14
事業対象者	0	1	0	2	2	0	5
合 計	9	5	2	8	8	0	32

#### 障がい者支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
利用者人数	0	1	0	1	0	0	2

#### 竹富町委託事業 障がい者移動支援事業

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合 計
利用者人数	0	0	0	0	1	0	1

#### 登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市	合計
登録ヘルパー数	6	1	3	1	2	0	1	14

#### 【成果】

・介護ヘルパーさんが大きなケガや病気もなく、無事に年度を過ごすことが出来た。また、利用者さんにも怪我をさせたりすることがなかった。

・竹富では夜の訪問も出来ている。島の登録ヘルパーが多いのでほぼ寝たきりでも困らない。

・ご利用者様のADLの向上(ヘルパーがくる前に少しかたずける等)

・常勤職員が8月から入ったので、少しは休みが取れるようになった。

## 【課題】

- 登録ヘルパーが居ても、一日2,3件の訪問件数だと生活が出来ないからと断られる。
- ヘルパー会議の日程調整がしづらく、出来ていない。
- 非協力的な家族との連携。利用者は困っていることを伝えても一向に改善しない。
- 竹富町はゴミの分別が細かくて、時間内にできないことがある。利用者は高齢者なので分別しきれずにまとめて捨てている。その中から、生ごみ、プラゴミ、燃えるゴミを分別しなおしている。
- ご利用者様の家で使用する、介護用手袋を社協で負担しているが、個人負担にしたほうがよいのか？
- 掃除の支援で、朝一番でとこだわる方が多く、他の方との組み合わせが難しいことがある。

## 20, 訪問介護事業(訪問介護ステーションさみん)

介護保険サービスでは、ヘルパーができるサービス・時間には決まりがあります。

まず、ヘルパーの仕事内容は「身体介護」と「生活援助」に分かれています。

「身体介護」とは…ヘルパーが高齢者の身体に触れ食事介助、入浴介助、排泄介助、あるいは歩行介助など、**直接利用者の身体に触れること**が「身体介護」です。

「生活援助」とは…「身体介護」と違い、掃除や洗濯、買い物、調理など**日常の家事をお手伝いする**のが「生活援助」です。

**訪問介護員(ホームヘルパー)は、何でも手伝ってくれるわけではありません**

### 身体介護でできないこと

#### 【医療行為】

- ・特殊な形態の爪きり(白癬により肥大している爪など)
- ・褥瘡の処置

### 生活援助でできないこと

#### 【直接本人の援助に該当しない行為】

- ・家族の部屋の清掃
- ・家族の方の洗濯・調理・買物・布団干し
- ・車・自転車・車椅子の点検・清掃
- ・家業の手伝い(商品の販売・農作業)
- ・来客の応接(お茶・食事の手配等)
- ・家具の移動や電気器具の修理
- ・床のワックスかけ、窓のガラス拭き
- ・家具の修理

#### 【日常的に行われる家事の範囲を超える行為】

- ・大掃除、家具の移動、模様替え
- ・正月や節句などの季節特別料理
- ・庭掃除、草木の手入れ、草取り
- など

#### 【ホームヘルパーが行わなくても日常生活を営むのに支障が生じないと判断される行為】

- ・ペットの世話
- ・金銭・財産管理
- ・公共機関や公文書などの代理人行為
- ・年賀状の作成
- など

◇個々の事情を鑑みて柔軟に対応してくれる場合もあるので、ケアマネジャーに相談してみるとよいでしょう。◇

### 【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成31年3月現在

#### 介 護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合計
要介護	5	2	0	2	1	0	10
要支援	1	3	2	1	3	0	10
事業対象者	0	1	0	2	4	0	7

#### 障がい者支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合計
利用者人数	0	0	0	1	0	0	1

#### 竹富町委託事業 障がい者移動支援事業

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	合計
利用者人数	0	1	0	1	0	0	2

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	6	1	3	1	1	3	0

【成果】

- ・ほぼ赤字を出さずに運営できた
- ・年末年始も休みなく365日訪問できた
- ・介護ヘルパーさんが大きなケガや病気もなく、無事に年度を過ごすことが出来た。また、利用者さんにも怪我をさせたりすることがなかった。
- ・年に一度訪問する親族から、室内がきれいになったと喜ばれた。
- ・掃除をしなかった方が、ヘルパーが来る日は自分の出来る範囲での掃除をするようになった。

【課題】

- ・登録ヘルパーが居ても、一日2,3件の訪問件数だと生活が出来ないからと断られる。

・常勤職員の休みの調整が厳しく、休みの日数が少ない。代休も取れず、年休も捨てている。

- ・ヘルパー会議の日程調整がしづらく、出来ていない。
- ・民間(楷成会)に移行する、しない、どうなっているのかわからず、働く側に不安を与えている。
- ・事業者は社協であり、事業所だけで運営しているわけではない。今後の運営、民間移行についても十分に協議をしてほしいと思います。

♪常勤訪問介護員のある1日♪

- 8:00.. 西表大原行の船に乗る → 大原の到着 → 社協の車で大富の利用者さん宅へ
- 9:00.. 利用者Aさんの生活支援。室内の掃除機かけ、床の水拭き、トイレ清掃、洗濯物回収
- 10:00.. 大原に戻って、利用者Bさんの生活支援。室内の掃除機かけ、台所、水回りの清掃、床の水拭き
- 11:10.. 大原で移動し 利用者Cさんの身体介護。入浴介助。ベッドから車椅子へ移動介助、更衣介助、排せつ介助、入浴介助、薬の塗布
- 12:00.. 西部へ移動
- 13:00.. 祖納 利用者Dさん宅へ、入浴支援。移動見守り、入浴見守り、出来ない所のお手伝い。その後、室内の掃除機かけ、浴室、トイレの掃除。
- 14:10.. 住吉 利用者Eさん宅へ、室内掃除機かけ、浴室、トイレ掃除、床の水拭き
- 16:30.. 大原に戻り、船で石垣へ。 17:20 事務所に戻り事務作業。

この日は1日の中で東部と西部を合わせて回る例です。利用者さんの希望の曜日や時間帯によって、ヘルパーの1人は東部、1人は西部と分かれる時もあります。経由便を使い、午前は西表、午後は竹富と回る時もあります。

担当者の想い…

訪問ヘルパーは利用者さんに寄り添って支援したい

竹富町は離島の離島で、みな等しく介護保険サービスを利用できるようにと介護保険料を払っているのに、十分なサービスを受けられず島に帰れない人が多い。

また、島によっては夜の訪問や毎日の訪問、土日の訪問ができず施設や島外に行く人も居る。

出来る限り、竹富町社協のサービスなのでニーズに応えたいが、島のヘルパーさんが居ないとサービスも充実出来ない。

今後、老人が増えていくにつれ様々なニーズが出てくるときに石垣からの訪問で賄えるのか？、これからの竹富町社協としての介護事業の展開をどのようにしていくのか？5年後、10年後の我が島の介護事情は？と、皆さんと一緒に事業運営を考えてほしいです。



介護保険サービスでは、ヘルパーができるサービス・時間には決まりがあります。  
まず、ヘルパーの仕事内容は「身体介護」と「生活援助」に分かれています。

「身体介護」とは・・・ヘルパーが高齢者の身体に触れ食事介助、入浴介助、排泄介助、あるいは歩行介助など、**直接利用者の身体に触れること**が「身体介護」です。

「生活援助」とは・・・「身体介護」と違い、掃除や洗濯、買い物、調理など**日常の家事をお手伝いする**のが「生活援助」です。

## 訪問介護員（ホームヘルパー）は、何でも手伝ってくれるわけではありません

上で、ホームヘルパーの仕事内容について説明しましたが、「**身体介護だから**」とか「**生活援助だから**」と**いって何でも手伝える訳ではありません**。

例えば、以下の行為はヘルパーさんをお願いしても手助けしてもらえません。

### 身体介護でできないこと

#### 【医療行為】

- ・特殊な形態の爪きり(白癬により肥大している爪など)
- ・褥瘡の処置

### 生活援助でできないこと

#### 【直接本人の援助に該当しない行為】

- ・家族の部屋の清掃
- ・家族の方の洗濯・調理・買い物・布団干し
- ・車・自転車・車椅子の点検・清掃
- ・家業の手伝い（商品の販売・農作業）
- ・来客の応接（お茶・食事の手配等） など

#### 【日常的に行われる家事の範囲を超える行為】

- ・大掃除、家具の移動、模様替え
- ・正月や節句などの季節特別料理
- ・庭掃除、草木の手入れ、草取り など

#### 【ホームヘルパーが行わなくても日常生活を営むのに支障が生じないと判断される行為】

- ・ペットの世話
- ・金銭・財産管理
- ・公共機関や公文書などの代理人行為
- ・年賀状の作成 など

どこまでがヘルパーの援助範囲かの線引きは介護保険制度では明確でなく、市区町村ごとにマイナールールがある場合があります。

個々の事情を鑑みて柔軟に対応してくれる町もありますので、ケアマネジャーに相談してみるとよいでしょう。



## 19. 訪問介護事業（訪問介護ステーションさみん）

### 【目的】

県指定	介護	要介護状態にある高齢者に対し、適正な指定訪問介護を提供することを目的とする。
	障がい	利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な指定居宅介護の提供を確保することを目的とする。
町指定	総合事業	「介護予防・日常生活支援総合事業」要支援1,2の方と事業対象者の方に対して心身の特性を踏まえて、その有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことが出来るよう、入浴、排せつ等の身体介護及び掃除、洗濯等の家事援助その他生活全般にわたる援助を行う。
町受託事業	移動支援	障害者等のうち、屋外で移動が困難な者（以下「障がい者等」という。）に対して、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

### 【内容】

介護保険制度における在宅の要支援者・要介護者に対し、訪問介護員（ヘルパー/介護福祉士・初任者研修）が利用者宅を訪れ、身体介護（排泄や入浴の援助）や生活介助（調理、洗濯、掃除等）を行う。

また、障害者総合支援法に基づく障害者居宅介護、竹富町が実施している障がい者移動支援事業を実施。

### 【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成30年3月現在

#### 介護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
要介護	3	1	3	2	0	0	0
要支援	1	4	1	4	7	0	0
事業対象者	0	1	0	1	3	0	0

#### 障がい

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	1	0	0	1	0	0	0

#### 移動支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	1	0	1	0	0	0

#### 登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	3	1	4	0	1	3	0

### 【成果】

・赤字を出さずに運営できた

・年末年始も休みなく365日訪問できた

・介護ヘルパーさんが大きなケガや病気もなく、無事に年度を過ごすことが出来た。また、利用者さんにも怪我をさせたりすることがなかった。

【課題】

- ・登録ヘルパーが居ても、一日2, 3件の訪問件数だと生活が出来ないからと断られる。
- ・常勤職員の休みの調整が厳しく、休みの日数が少ない。
- ・ヘルパー会議の日程調整がしづらく、出来ていない。
- ・老人介護だけではなく、障がい者の支援も行っているので戸惑いながらやっている。また、研修の機会が少ない。
- ・次年度から生活支援員の新資格ができる、竹富町と連携し、ヘルパー2級(初任者研修)を受けてない人で生活援助だけ行ってくれるヘルパーの開拓をしたい。
- ・ますます、軽度者が増えていく様子なので、有償ボランティアなどの仕組みを作っていかなければと思う。(ゴミ出しや、ちょっとした掃除等)竹富町総合事業で行う予定

## 18. 訪問介護事業(訪問介護ステーションさみん)

【目的】

国 保	介護	要介護状態(介護予防にあつては要支援状態)にある高齢者に対し、適正な指定訪問介護(介護予防訪問介護)を提供することを目的とする。
	障がい	利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な指定居宅介護の提供を確保することを目的とする。
町 受 託 事 業	軽度生活	日常生活を営むのに支障がある在宅のひとり暮らし高齢者等に対して、生活援助員(以下「援助員」という。)を派遣し、ひとり暮らし高齢者等が地域の中で安心して自立した生活を営むことができるよう、軽易な日常生活上の援助を行うことにより高齢者等の福祉の向上を図ることを目的とする。
	移動支援	障害者等のうち、屋外で移動が困難な者(以下「障がい者等」という。)に対して、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

【内容】

介護保険制度における在宅の要支援者・要介護者に対し、訪問介護員(ヘルパー)が利用者宅を訪れ、身体介護(排泄や入浴の援助)や生活介助(調理、洗濯、掃除等)を行う。

また、障害者総合支援法に基づく障害者居宅介護、竹富町が実施している軽度生活支援事業

(介護保険以外でサービスが必要と認められた方への家事援助、外出支援等)、障がい者移動支援事業を実施。

【事業実績】

地区別利用者人数内訳 平成29年3月現在

介護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
要介護	2	2	3	2	0	1	0
要支援	2	3	2	5	10	0	0

障がい

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	1	0	0	1	0	0	0

軽度生活

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	0	1	0	0

移動支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	1	0	0	0

登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	2	1	4	0	1	0	1

軽度生活支援員

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
ヘルパー以外	0	0	0	0	1	0	0

【成果】

竹富島在中のヘルパーが世代交代しつつあり、新しい人が頑張ってくれている。

お正月も休みなく訪問ができ、利用者家族から喜ばれた。

竹富で新規に障がいの支援に入ることが出来た。

- ・竹富で夜の訪問が始まった。
- ・船浮にも訪問支援に入れることが出来た。
- ・午前はデイで午後は訪問に行けるように人件費の削減ができた。

【課題】

- ・島外のヘルパーが良いという利用者さんもいる
- ・登録ヘルパーを多くしても、常勤者が居ないといけないので結局人件費の削減にはならない。
- ・事務所が狭く、相談室もないため、いつも竹富町の町史編纂室を利用しているが、個人情報の観点からこのままではよくない。
- ・竹富島でのヘルパー養成講座受講の方に仕事を振り分けていきたい

## 21 ,居宅介護等支援事業(訪問介護ステーションさみん)

### 【目的】

介護	要介護状態(介護予防にあっては要支援状態)にある高齢者に対し、適正な指定訪問介護(介護予防訪問介護)を提供することを目的とする。
障がい	利用者の意思及び人格を尊重し、利用者の立場に立った適切な指定居宅介護の提供を確保することを目的とする。
軽度生活	日常生活を営むのに支障がある在宅のひとり暮らし高齢者等に対して、生活援助員(以下「援助員」という。)を派遣し、ひとり暮らし高齢者等が地域の中で安心して自立した生活を営むことができるよう、軽易な日常生活上の援助を行うことにより高齢者等の福祉の向上を図ることを目的とする。
移動支援	障害者等のつち、屋外で移動が困難な者(以下「障がい者等」という。)に対して、外出のための支援を行うことにより、地域における自立生活及び社会参加の促進を図ることを目的とする。

### 【内容】

介護保険制度における在宅の要支援者・要介護者に対し、訪問介護員が利用者宅を訪れ、身体介護(排泄や入浴の援助)や生活介助(調理、洗濯、掃除等)を行う。

また、障害者総合支援法に基づく障害者居宅介護、竹富町が実施している軽度生活支援事業(介護保険以外でサービスが必要と認められた方への家事援助、外出支援等)、障がい者移動支援事業を実施。

訪問介護事業所には事業の規模に応じて1名以上のサービス提供責任者の配置が義務づけられている。

常勤換算法で2.5名以上の訪問介護員が必要

### 【事業実績】

地区別利用者人数内訳

平成28年3月現在

#### 介護

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	4	2	5	4	4	0	0
うち要支援者	1		2	2	4	0	

#### 障がい

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	1	0	0	0

#### 軽度生活

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	0	2	0	0

#### 移動支援

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
利用者人数	0	0	0	1	0	0	0

#### 登録ヘルパー

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
登録ヘルパー数	1	1	4	0	1	0	1

#### 軽度生活支援員

地区別	竹富	小浜	黒島	西表東部	西表西部	波照間	石垣市
ヘルパー以外	0	0	0	0	1	0	0

#### 【成果】

- ・西部地区に登録ヘルパーさんを一人配置できたので、冬場の上原行が欠航時にとても助かった。
- ・竹富町の障がい者移動支援事業を行い、ふだん訪問に行っている利用者さんが石垣に行くときの付添いができるようになった。
- ・今年度は大みそか、正月も訪問したので365日の訪問介護ができた
- ・大原で看取りの方の訪問介護ができ、本人も家族も喜んでいました。

#### 【課題】

- ・早朝、夜間の対応が出来ない。
- ・島外のヘルパーが良いという利用者さんもいる
- ・登録ヘルパーを多くしても、常勤者が居ないといけないので結局人件費の削減にはならない。
- ・竹富町の利用者だけだと、赤字経営になる。石垣の利用者を増やすと、離島に行けなくなる。どうしたらよいかわからない。
- ・事務所が狭く、相談室もないため、いつも竹富町の町史編纂室を利用しているが、個人情報の観点からこのままではよくない。
- ・気軽に利用者さんの顔が見に行けない
- ・竹富町の離島等相当にしたいが、介護のほうは条例があるが、障がいは離島等相当がないので出来ない。



ヘルパー以外	0	0	0	0	1	0	0
--------	---	---	---	---	---	---	---

**【成果】**

- ・西部地区に登録ヘルパーさんを一人配置できたので、冬場の上原行が欠航時にとても助かった。
- ・竹富町の障がい者移動支援事業を行い、ふだん訪問に行っている利用者が石垣に行くときの付添いができるようになった
- ・前年度は年末年始の訪問ができなかったが、年末は12/30、年始は1/2より訪問が出来た

**【課題】**

- ・早朝、夜間の対応が出来ない。
- ・島外のヘルパーが良いという利用者さんもいる
- ・登録ヘルパーを多くしても、常勤者が居ないといけないので結局人件費の削減にはならない。
- ・竹富町の利用者だけだと、赤字経営になる。石垣の利用者を増やすと、離島に行けなくなる。どうしたらよいかわからない。
- ・事務所が狭く、相談室もないため、いつも竹富町の町史編纂室を利用しているが、個人情報の観点からこのままではよくない
- ・気軽に利用者さんの顔が見に行けない
- ・竹富町の離島等相当にしたいが、介護のほうは条例があるが、障がいは離島等相当がないので出来ない。